

第5回羽幌町離島振興計画策定住民委員会 会議録

- 1 開催日時 平成25年3月18日(月) 15:30~16:50
- 2 開催場所 羽幌町役場 4階大会議室
- 3 出席委員及び欠席委員の氏名
 - (1) 出席委員：松森 二美子、宮崎 尚武、蝦名 修、野上 正弘、大井 幸子、高松 亮輔
 - (2) 欠席委員：万谷 美喜子、佐賀 大一、寺坂 國廣
- 4 説明のため出席した事務局職員の氏名
総務課長 井上 頤、政策推進係長 熊谷 裕治、政策推進係主事 廣谷 将大
- 5 会議の公開、非公開又は一部公開の別 公開とする
- 6 議題及び議事の要旨
 - (1) 議 題 ①羽幌町離島振興計画(原案)について
②答申(案)について
 - (2) 議事要旨
 - 委員長よりあいさつ
2月20日に議会にかけて、議会の意見等もありますので、第5回目の最後の委員会の中で内容確認をして決定させて頂き、町長に答申をするのでご理解の程よろしくお願ひしたいと思ひます。
 - 事務局より資料1原案の修正点について説明。
委員：施策の大綱の所で3節に分かれ、16Pに施策体系図が載っているが、例えば「人がやって来る島」の中で「再生可能エネルギー」とあるが、島民にしてみれば「安心して暮らせる島」の方がイメージ的に合っているのではないか。内容を見ると防災的な面もあるので、「安心して暮らせる島」の方がマッチする。
委員：当然、そう言われればそう思う。例えば、エコに関する部分で、天売の方でプロジェクトを実施しているが、災害があった時に焼尻からの電気が寸断された場合、風力発電で蓄積された電気によって一時的に賄えるのかなという考えがある。「安心して暮らせる島」に入る方が良いと思う。
事務局：おっしゃった通りだと思う。「自然環境」という施策が「人がやって来る島」に入っていて、「再生可能エネルギー」が自然環境の保護という意味合いもあるし、エコアイランドを目指し先進的なエコな島にすること

で交流人口の拡大を図るという意味も含まれているが、防災対策と言う意味合いもある。皆さんのイメージとして、「再生可能エネルギー」の施策項目が、「安心して暮らせる島」の方が馴染むということであれば変えても問題ない。

委員：考え方によって、今言った通り防災対策にもなるし、エコ的なことを考えれば自然を守るという意味にも当てはまる部分がある。

事務局：どちらに変わっても問題無いと思う。

事務局：当初、自然エネルギーを全面に出すことによって、自然を活かすことで「島に人がやって来る」という狙いがあった。途中から防災対策という部分も出てきたが、「人がやって来る島」に含めてきた。

委員：特に拘っている訳ではないが、その中でも自然環境という部分も出ているので、それで十分自然を維持しながら魅力ある島づくりをやって行くのだろうなという考えがあった。

委員：以前、「再生可能エネルギー」が離島振興に必要なのか？という話をした事があるが、自分が実際に色々見に行きたいと考えた時にエコな島で売っていると言って魅力があるとは思わない。個人の考えとしては、観光として売るよりも、有事の防災対策の強化という方が馴染むと思う。

事務局：町の方も皆さんの総意であれば変える事はやぶさかではない。

委員：もう1点、島づくりの目標の中で、第1は「魅力ある漁業が営める島」という事だが、内容がもう少し踏み込めないかなと思う。例えば、担い手や後継者対策は、沿岸部分より遥かに大変な部分もあるが、ある意味では資源の使い方としては人口減少を踏まえると、将来的に十分漁業の発展はあると思う。その中で、ただ漁業をするだけではなく、そこで生活の基盤を確保する部分においては、漁業は男だけが残っても経営的にも営む事を考えてもなかなか難しい所がある。以前は、花嫁対策ということがあったが、別に「国内交流」という部分があるから良いのか？漁業と結び付ける事で振興計画に盛り込める内容がないかなと思う。

事務局：おっしゃった通り。交流ということで、島で花嫁対策を進めて欲しいというご意見を受けて、昨年、島の中でどの位の希望があるか調査をしたが、実際に希望があると回答を頂いたのが、以前にお話した通り少なかったのが現状。これで止めたという訳では無くて、何か交流が出来ないかという事で考えており、実際にやるとなったら希望が増えて来ることもあると思う。

事務局：今、花嫁対策ということでは難しかったので、団体同士での交流を考えている。

委員：結構あちこちで浜の交流ということで、漁業を知ってもらおうと言う事と漁師の苦勞、精悍さを知ってもらおうアピールになると思う。女性の環境

に慣れている人は良いが、引っ込み思案というかなかなか女性とうまく会話が出来ない人も多いと思う。今言った団体交流ということであれば、「国内交流」という部分でも良いのかなと思う。

○事務局より資料2 議会からの意見について説明。

委員：天売高校については、道の教育局どのような考えを持っているか。地元の考えとしては、例えば、生徒が1人でも2人でもいれば存続して欲しい。教育局の方もそれで良いという事であれば、住民としても存続して欲しいと思っている。焼尻小中学校の耐震問題については、これから上がって来る生徒が何人という事云々よりも、何か被災した場合に避難場所になっていることを考えれば、避難場所という位置付けにしてある程度耐震化する形でも良いのかなと思う。

委員：自分も今の意見と全く同じで、今後の推移を見るということで児童数の話をしているが、じゃあ何人いれば学校を閉校しないで行けるのかが問題で、1人でも2人でもいれば閉校しないでやって行くのであれば、児童の事を考えた時に当然耐震化しなければならないというのが普通だと思う。生徒の推移を見るのではなくて、道の教育局なりの考え方で、継続出来るのであれば施設の整備も考えるべき。ここで言う通り、今すぐ出来ないにしても避難場所という考えなり、イベントを踏まえてスパンを考えて段階的に整備して行った方が、地域に光が当たって良いと思う。

委員：自分も同じ意見で、実際問題、島を出て行く話の方が強くなっている。自分自身、子どもが生まれたとして、自分の子どもの為に施設を直して、教員を何人も雇用するという負担を考えたら、月いくらの補償金をくれたら別の地域に行くという方が現実的。その中で、避難所としての建物として考えると、海拔の低い土地の学校を整備して避難所を整備する意味があるのか。海拔40m位の研修センターの方の体育館とかを今よりもしっかり使えるようにした方が現実的だと思う。

委員：離島振興という計画を考えるのであれば、なかなか取り入れにくい部分ではある。そこには経済的な部分もあり、留萌は大変だが羽幌なら良いという話も個々の考え方があると思う。

委員：実際に焼尻で、子どもはいるが奥さんの実家で奥さんと子ども達が生活しているパターンもある。学校としての機能を維持して行くよりも、焼尻に単身で残っていて奥さんの実家から学校に通うという時に、旭川だろうが札幌だろうが補償金を出せるようにした方が有りがたい。施設の整備に何千万もかけるのであれば、そっちの方が現実的と思う。

委員：例えば、1人2人の生徒が居て、それに要する整備費だとか人件費の方が大きいので、現実的には奥さんの実家から学校に通わせる場合の補助金の方が安上がりということ。

委員：これから島で結婚しようとか、子どもを産もうとしている場合、そっちの方が安心出来るし、島での生活も維持して行けると思う。

委員：そうすると人口流出の歯止めにはならない。

委員：これから子ども達が使わなくなる校舎にお金をつぎ込むのであれば、避難所として考えた時に東北位の津波が来たら終わりの場所だし、それを分かっているお金を使うのかとなれば、もっと海拔の高い地域に整備した方が良い。

委員：9番で言うと、10年スパンの中に学校施設の整備について意見があったことを学校管理課に伝えるということだが、どういうことを具体的に伝えるのか？

事務局：学校管理課の方では、天売高校を10年間補修して使えるようにするという話であったが、実際10年間延命して行くのか、根本的に整備が必要ではないのかという話だったが、10年間の中に含めるのは難しかった。

委員：実際問題、天売高校に進学する生徒は何人位いるのか？

委員：今年は2人いるし、来年は4人いるかもしれない。今は3年生が居なくて、2年生が4人居る。飛び飛びでも2人位は入って来る。

委員：子どもがいるというのは強い。

委員：天売高校の話をするれば、要は7年前に小中学校を改築した時に、かなりのお金をかけてもらって、高校も新築ということにはならないだろうという事で、十分承知している。出来ることであれば、天売小中学校に高校も間借りしてやってはどうかというお願いもしたが、補助金的な絡みがあって無理な話だった。今、町の財政も切迫している中で天売高校を全面改築という話にならないと思っている。やはり、10年スパンの中でトイレを直して行くだとか、体育館の屋根を直して行くというような感じしかない。さっき言った、一時的な避難場所ということでは良いが、二次的な避難場所は天売小中学校があるから、そこに移ればそれで良い。

委員：学校問題に関しては、現状も現状だし、それなりに議論して行く余地はあるので、推移を見ながらという部分だと思う。

委員：10番については、イベントを含んでと言うことで良いか。

事務局：その通りです。以前、委員から天売の団体に視察に行った際に誘ってくれればという話があったようなことで、両島でバラバラにやるのであれば一緒にやってはどうかという意見。

委員：確かに天売では、「おらが島活性化会議」という会議を作って6人か7人位いるが、焼尻でもそういう事がやりたいが人が居ないという話。焼尻は1人でも3人でも良いので、二つをまとめてやるのであれば補助金を貰えるようなシステムがあればということ。

- 委員：視察だけで無く。両島間の交流の話で、何か一緒にやろうかというキッカケが無い。前回の4回目の会議で言えば良かったなと思ったのが、両島の交流事業が振興計画に全く盛り込まれていない。例えば、新高速船の様な立派なものでなくて良いから、両島を行きき出来るような漁船レベルの船があれば、一日一往復でも良いから両島で交流出来るようにシステムが作れば違うと思う。
- 委員：ちょっと飛んだ話をすると、天売と焼尻間だけでも良いから橋があれば一つの島になるし、フェリーだって羽幌～焼尻までで良いし、学校や診療所だって一つで良い。
- 委員：フェリーに生活が左右される。夜に集まって活性化の話をして行かないかと思っても今の状況では不可能。
- 委員：今の話で、町側から見ると、昔フェリーが出なくてもマグロが取れた時に漁船で何十匹も積んで羽幌に来ていた。その話を考えると、フェリーが多少来れなくても漁船で民間でお互いの島を結ぶような工夫をしてやってみて、それでどうもならなければ町にお願いをするなり、島民の大変なことは島民でなければ分からないことなので、まず、お互いに交流をする気持ちがあるのであれば個人的にでも良いからやってみてはどうか。
- 委員：人数の話で、天売では4、5人の若者が集まってそういう話をする機会があるし、指導してくれる人もいる。自分も仲間に入りたいと思えば船を持っているので行けるので、自分で賄っている。ただ、漁師以外の島民には出来ない事を特権としてやっている。その人達まで乗せて行けるかと言ったら、万が一のことを考えると責任は背負えない。
- 委員：この前の会議で、漁船で来たことがあったが、天売でも焼尻でも順番で良いから、やれることをやってみるのが先決かなという気がする。それでもさっき言った問題があるのであれば、それはそれで次の段階で考えれば良いのかなと思う。
- 委員：実際、天売で会議をやっていて、焼尻から行きたいと思っているのは自分だけなので実際は賄えている。今は良いが、例えば他の人達がとなればちょっと難しいし、あてにされても困る。
- 委員：全般的な内容が決まって今更言うまでもないが、町側から見れば多少の自分達の島民が出来ることでも町に頼んでいて甘えがあるようにも見える。島民にしてみれば、これがもう少しお互いに交流しながら知恵を出し合いながら若い人達が参加出来る環境づくりをまず島の人達にしてもらわなければという気はする。これで、天売には人がいるというのは以前から先を見越しての取組があったかどうかは分からないが、天売と焼尻の違いが随分出て来ている。

委員：高校の存在だと思う。あと、仕事のことで言ったら、オロロンなのかオ
ンコなのかということもあると思う。

委員：天売と焼尻で100人近い差があるが、100人の差は大きい。なんで差があ
るかと言ったら、一概には言えないが高校があったか無かったかもある
と思うし、天売と焼尻島民の考え方の違いがあったと思う。今の時代に
こんな話をするのはどうかとも思うが、土木関係の公共事業があったか
どうかで雇用が全部に波及する。

委員：天売の場合は、沖合いの海が使える。そうすると、大きい規模の漁が行
えるので、息子を残そうという考えになるが、焼尻の場合は、言ってみ
たら行き止まりの海なので、そこで大量に獲るような手段が無かった訳
ではないだろうが、直業しづらかったのでは。息子を残さないで自分一
人で生活を送るような流れになったのだと思う。

委員：漁業権の問題なのか？

委員：漁業権の問題ではないが、地理的なもの。焼尻は、前浜漁港中心でやっ
てきたし、天売は天売と焼尻の間が狭いので、どうしても西側の沖に出
るということだった。

委員：そうなれば跡継ぎが居て、跡継ぎが居れば嫁さんも居てというサイクル
になっている。

委員：天売では金がなくて地元に住わせて、焼尻は金がなくても町場の学校に
通わせるという教育姿勢や理解の違いもあったように思う。

委員：天売と焼尻が一体になって進めるとなれば、同じ会議で顔を合わせて協
議をしなければ一体的な動きが出来ないということもあるし、漁で行け
ない日もあれば、フェリーの出ない日に行くのも危険がある。会議の頻
度をどうするかは別として、言わば、離島振興のために若い人達が真剣
に考える協議会でも会議でも話を束ねる弾があるのであれば、人づくり
の基金の使い方を、町側とは別に考えて、離島振興のための人材育成を
進めるというのであれば、島民の旅費に金を出すと何かの形で町で
も変更する考え方で良いと思うが、それも何も出さないで担い手が少な
いの後継者が少ないだの言うのではなくて、何らかの支援体制をきち
んと町で作る考えも持っていないとならないし、後は島の意思の問題が
ある。やる人は忙しい中でも時間を作るし、真剣に将来の島の事を検討
したいということであれば、なんらかの支援が必要だと思う。そのため
に基金を積んでリーダーなり人材育成をやって行く、島で連携を図って
行くのであれば良い気がする。まさに、そういう所に時間をかけてお金
を使って行くべきだと思う。

事務局：今回の海士町視察は、人づくりを利用しているが、今まで交流事業で
出したことは無かったので、出来ることはあると思う。

事務局：今の人づくり基金の要綱を変えて行かないと、今の基金は講習会や研修で得たものを広く周りの人に広げて行くものが対象であり、使い辛いと言われるかもしれないが、旅費とは少し性質が違う。

委員：町の中でも色々な基金があると思うが、町も懐を緩めろと言っている訳では無くて、もう少し使い勝手の良いものにする必要がある。

委員：自分はどちらかというとお金をくれというスタンスではなくて、天売で取組をやっている組織があって、自分はその組織に入りたいが向こうからすると人はいるから、焼尻が来なくても会議をやる様な形で置き去りにされているものが、町が両島の計画をやろうとしているからという一言や手助けがあれば、同じスタートで同じ事が出来る。

事務局：以前、IP告知端末を使った会議を行ったが、IP告知端末では会議は出来ないのか？

委員：IP告知端末はちょっと使い辛い。

事務局：実際、天売でも組織があるが会議を頻繁にやっている状況でもなくて、必要な都度行っている。今話があったような町として両島で一体的に事業を行う弾がある訳でもなく、計画に何かを盛り込んで取組むというのは今の段階では難しいが、今後、どういう手段で活気付けるために一歩進んだ取組をやって行くかと言う事で、交流事業なりイベントをやって行く上で、一体的に取組むという考えを持ってやっていけるキッカケになったと思う。

委員：当然、両島間で話をするのも良いが、町が間に入ってこういうことをするから両島でどうですか？という声掛けが必要ということ。町でも中に入って声を掛けて欲しいと思う。そうすれば、それなりに島の方も動くと思う。

○事務局より資料3答申（案）の修正点について説明。

委員：例えば、基本構想及び基本計画を別紙のとおり一部修正ということだが、意見・要望・質問のまとめに回答とあるのは町の回答なのか。

事務局：その通りです。

委員：原案があって、どこをどう修正したか分かる資料が無いが、これで分かるのか？

事務局：本来、町である程度作成を進めてきた原案に対して諮問という形になるが、今回はたたき台の段階から住民委員会の皆さんに入って頂いて計画を作り上げてきたので、この計画そのものが答申という形になったという考え。

委員：というのは、文言として一部修正で良いのか？一部修正となっているから聞いた話の話。

事務局：基本構想は大きく変わったが、総論等変わっていない部分もあるので一部とした。

委員：一部となれば、例えば、基本計画の文言の一部という様な感じを受けるのではないかと思う。町長がこれを見た時に、普通の解釈の仕方として一部修正だけどこが変わったのか？という話になると思う。

事務局：今回は素案から中身を含めて作り上げるという形だったので、どういう表現が良いか。

委員：それであれば、「別紙のとおり答申します。」の方がすっきりするのではないか？

事務局：「一部」は削除して、「別紙のとおり答申します。」に直します。

委員：「一部」は削除して、「別紙のとおり答申します。」で答申します。

○閉会